

極限状態

2023.6.5

「どんなタイプの人か極限状態の中で強いのか」という話がある。体力でもない。勇気でもない。寒気と嵐の中で何日も耐え抜くことのできる人間は、礼儀正しいタイプのメンバーだったという。テントの中に閉じ込められて何日も何日も待つ。いつ嵐が過ぎ去るか知るすべもない。誰もがいらだち、ときには口論したりする。

そんな中で、最後まで耐え抜くことのできる男は、意外なことに「礼儀正しい男」だったというのである。朝、起きると、きちんとひげを剃る。髪をなでつけ、歯を磨く。顔を合わせると笑顔で、「おはよう」と挨拶する。横をすり抜けるときには、「すみません」という。そして、時々、冗談を言って仲間を笑わせる。できるだけ身綺麗にして、荷物の整理も忘れない。

そんなタイプの男が、いざという時に強かったというのである。ガタイが大きくて、荒っぽい男は、意外に頑張れなかった。

礼儀正しい、すなわち、しつけの問題のような気がする。親のしつけである。親の育て方である。礼儀正しい人間は、毎日毎日礼儀正しい。常に礼儀正しい。結果的に、修行のように徳を積んでいるのではなかろうか。

だから、極限状態になったときに強いのではないか。追い詰められたとき、最後は心である。心がすべてを決める。そう思う。今の時代に、普通の生活をしていて極限状態に追い込まれる可能性は高くはないだろう。

だが、人生は何が起こるか分からない。地震、台風、水害などの自然災害などは、毎年のように起きている。いつ、だれが、どこで極限状態に追い込まれるかは分からない。そう考えると、心の修行が大切になってくる。

礼儀正しく、挨拶をする。掃除をやる。靴をそろえる。早起きをする。当たり前のように毎日やり続けることは、そう簡単ではない。これを積み上げていく。そうやって、心をつくっていく。そんな気がする。

人類は、今までに何度となく極限状態を経験してきている。そのたびに、人々はどんなことを思ってきたのだろう。これから、人々が右往左往するような極限状態がこないことを祈りたいが、現実には、そう甘くはないだろう。

きっと、キーワードは平常心なのだろう。どんなことが起ころうとも、どんな状態になろうが、慌てず、騒がず、落ち込まずに、平常心を保てるかどうかであろう。普段から精進あるのみである。